瀧谷山報

開創一千二百年記念特別号

令和3年7月発行
通巻170号

●発行所：瀧谷不動明王寺
〒584-0058 富田林市彼方(オナタ) 1762 電話 0721-34-0028 振替 00930-5-17704
●発行人：荒谷純光 ●編集人：荒谷純栄

瀧谷不動尊 開創一千二百年 祝祷法要 ご報告

令和三年、瀧谷不動尊は開創一千二百年を迎え、五月二十五日から五月二十八日にかけて開創一千二百年祝祷法要を奉修。五月二十五日には開創一千二百年記念事業として建設された寺務棟・客殿棟の落成式を執り行ないました。

当山は平安時代の弘仁十二年弘法大師により創建され、令和三年は開創一千二百年に正当いたします。

当山ではこの開創一千二百年を節目に新たな半世紀を見据え、災害等への憂いを断つべく寺務棟・客殿棟の新築事業を発願。工期三年に及ぶなか、平成三十年末に一期工事の寺務棟が完成、令和二年夏に二期工事の客殿棟が完工を迎えました。

当事業には、これまでに二千数百名を超える方々のご讃助を賜りました。皆様には公私何かとご多端のところご信援を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

当初は法要期間を五月一日より五月二十八日までとし、ご奉讃をいただいた皆様をご招待する予定でしたが、未曾有のコロナ禍により止むなく中止。法要期間は五月二十五日から五月二十八日までとなりました。

五月二十五日には、開創一千二百年記念特別大護摩供・開創一千二百年記念事業落成式を執行。五月二十八日には、大般若経転読付大護摩供・開創一千二百年記念柴燈大護摩供を勤修。百名以上の修験者たちにより十万本に上る護摩木が火中に投じられました。

ご信徒皆様のご招待が叶わず真に残念であり、また大変申し訳なく存じます。しかしながら、このコロナ禍の最中にも記念事業を完遂し、盛大に開創一千二百年を迎えられましたことは、偏に御本尊不動明王のご威徳とご信徒皆様のご信助によるものと、茲に重ねて御礼申し上げます。

ご奉讃の皆様には祝祷法要の記念品をお送りし、ご芳名を永く寺録に留め家門繁栄を祈念いたします。また開創一千二百年を契機にさらに多くの人々がお不動様のご加護に与られ、現当二世の福徳に浴されますよう、精進して参る所存であります。

ご信徒皆様には一層のご信心を賜りまして、お不動様の大きなご加護ご利益を授かられ、良き毎日をお過ごしいただきますよう心からお祈り申し上げます。

山主の護摩作法にあわせ、堂内は不動慈救(しくのしゅ)呪の唱和につつまれた

◆開創一千二百年記念事業

開創一千二百年記念事業として建設された
寺務棟（手前）と無畏殿（客殿。奥）

無畏殿玄関前の石庭。無畏殿は令和2年秋に完成し、
令和3年正月には多くの参拝者を迎えた

無畏殿玄関内部

祝祷法要にあわせ、損傷していた鐘楼堂の屋根も修復された

無畏殿内部「不二の間」

無畏殿内部「日輪の間」

無畏殿大広間。
須弥壇には
走り不動様が
安置される

祝祷法要のために荘厳された本堂

◆開創一千二百年記念特別大護摩供【五月二十五日】

法要のため、無畏殿玄関を進発する職衆（しょくしゅう）

新築の寺務棟と無畏殿に対し、山主により伽藍加持が行われた

本堂へ向かう職衆。法螺師の先導を受ける

職衆は本堂正面にて対合し、庭儀をつとめてから入堂する

登壇し、「三礼・如来唄」を唱える山主

職衆を迎えるため、修験者により法螺吹奏が行われる

散華。色とりどりの花を撒き、道場に集う仏菩薩を供養した

開創一千二百年記念特別大護摩供　慶讃文

謹ミ敬テ真言教主大日如来両部界會諸尊聖衆
殊ニハ本尊聖者不動明王四大八大諸大忿怒
惣ジテハ佛眼所照微塵刹土ノ境界ニ曰テ言ク
夫レ惟ルニ当山ハ弘仁十二年　弘法大師嶽山ノ
北麓ニ開基サレシヨリ以来　本年ハ日出度クモ開創
一千二百年ニ正当セリ
途中二度ノ兵火ヲ受ケテ伽藍ヲ此地ニ遷シ　近クハ
平成二十三年ニ御本尊現地奉安五百五十年ヲ
迎ヘ　本日重テ開創一千二百年ノ慶事ヲ迎ルハ　惟レ
偏ニ御本尊広大無辺ノ御威徳ニ依ルナリ
御本尊数々ノ霊験ヲ表シテ無数ノ信徒ヲ救ヒ玉ヘリ
仍テ茲ニ有縁ノ龍象ト共ニ祝祷ノ大法会ヲ厳修シテ
感謝ノ誠ヲ捧ゲントス
顧ミテ当山次第ニ復興スト雖モ　東日本大震災ノ
惨禍ヲ見ルニ今日マデ当山幸ヒニ魔事無キヲ得タルモ
華奢古材ノ客殿　次ハ無事不成ト憂フ　故ニ小衲
寺務棟及ビ客殿棟ノ新築ヲ発願ス　構想五年
計画ヲ発表スルヤ　広ク十方信徒ノ信援ヲ得テ今日ヲ
迎フルコト僥倖之ニ過タルハ無シ
設計ヲTAU設計事務所ニ依リ三年ノ工事ハ松井
建設ニ頼ミテ昨年六月一日ニ引渡ヲ受ケル　眞ニ斯レ
開創二千二百年ノ慶事ニ相応スル記念事業ト成レリ
今日ヨリ客殿ヲ無畏殿ト称シ寺務棟ト共ニ御本尊ノ
法輪無辺ニ轉ゼラル事ヲ楽フ本尊聖者我等ガ微志ヲ
哀愍納受シ有縁信徒ニ普ク加被ヲ垂レ給ハンコトヲ
重ネテ乞フ

天下泰平　萬民富楽　疫病消滅
山内安穏　興隆佛法　信徒安全
各願成就　乃至法界平等利益

維時　令和　三年　五月二十五日
瀧谷不動明王寺
純光　敬白

法要終了の報告のため、先師墓地へ墓参に向かう職衆

法要の最後に、参列者に向け山主より洒水加持が行われた

山主謝辞

一言御礼のご挨拶を申し上げます。

本日は皆様方には公私ご多端の中、当山 開創一千二百年祝祷法要にご参列をいただき、誠にありがとうございました。本来なればご本山の管長様をはじめ数十名のご来賓の方々、またご寄進をいただいた二千数百名の皆様方にご案内・ご招待を申し上げ、この祝祷法要を厳修し記念事業の落成式を挙行すべく準備をしておりましたが、現下のコロナ渦で果たせず残念ながら日程と規模を縮小し、内々で勤めさせていただくこととなりました。さて内々で勤めるのならば、毎月のご縁日にご奉仕をいただく皆様に当山のお身内としてここにご参列をいただいたところでございます。

先ほどの慶讃文でも奏上した通り当山の今日は偏にご本尊様のご威徳に依るものでありますが、また御利益を受けられた無数の方々のご信助の賜でございます。本日このようにご縁の皆様と共に一座の法要を厳修し感謝の誠を捧げられましたことに、誠に有り難く存ずる次第でございます。

またこの法要に職衆・随喜・承事として出仕をいただいた谷響会の皆様にはご多忙の中、遠近を問わずご助法をいただき誠にありがとうございました。谷響会は当山の職員ＯＢ・縁故・友人の方々で構成し、瀧谷の谷で響き合う仲間の会でありますが、コロナ禍の下でも、谷響会の皆様によりまして、当初の予定の通り本日このように厳かに記念の祝祷法要を勤められましたことも、誠にありがたく心から感謝申し上げる処でございます。

当山は本年開創一千二百年を迎え、明治・大正・昭和・平成・令和と続く復興の一里塚を築いたように思われますが、お寺としての使命はまた一つ大きくなったものと心得えておるところでございます。今後はさらに心してご本尊にお仕えし、ご本尊の慈悲ご霊験の広く社会に敷衍されんことを念じ、精進して参りたいと存じます。

皆様にはますますご信心を賜りまして、お不動様の大きなご加護ご利益をいただかれますこと、そして何よりも良き毎日をお過ごしいただきますことを心からお祈りし、甚だ簡単措辞ながら御礼のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

◆開創一千二百年記念柴燈大護摩供【五月二十八日】

修験者の入山。奥は新築の無畏殿

柴燈護摩道場へ進列する修験者

修験者による行者問答。
旅の修験者が道場への入場を希う

本堂での法要を終えた山主が柴燈護摩道場へ入場する

法弓の儀。魔をはらう結界の意味がある

山の神より薪を貰い受ける斧振の儀

法剣の儀。煩悩を断ち道場を清浄ならしめる

願文を読み上げる柴燈師。参拝者も一斉に手を合わせ祈られていた

柴燈師は火中にお不動様を勧請し、信徒各々の所願成就を祈る

天を衝く大火炎が上がり、修験者たちの読経は
止むことなく続いた

点火された護摩壇からは、
とぐろのように煙が噴き出し、道場を包んだ

柴燈師の所作にあわせ、奉納された護摩木を修験者が火中に投ずる